

# 随筆



## 地球を救う医者になろう

いなふくクリニック  
稲福 薫

とんでもない荒唐無稽な話をしているように聞こえると思いますが、これは本気の話です。実は、わたしたちが毎日たずさわっている医療の中に、この危機に瀕した日本や地球を救う原点があるのではないかという話です。

### 1. 全体の心

人間の心の奥底にはだれしも**全体の心**というものがあるのではないのでしょうか。人は生まれついて自分のことだけではなく他人や地球や人類全体のことを思う心をみんなが持ちあわせているのではないのでしょうか。子供達に「このままでは地球はあぶない。地球を救おう。人類の未来を考えよう」と言うとき誰でもうなずくはずです。中でもそんな感覚の強い人間が医者になったのではないのでしょうか。しかし、その後の人生でいつのまにか自分のことにかまけたり、あるいは心が現実にのみ込まれたり、仕事や生活にあくせくしているうちにその**全体の心**を忘れてしまったような気がするのです。そのように生きてきて今思うわけです。今までの人生は何だったのだろう。何のために頑張ってきたのだろう。それなりに仕事をやりとげ、家族を養い、趣味も色々あるけど、だから何なの？何かもっと大切なことを忘れていないか？と感じるわけです。

というのも、今まで自分が積み重ねてきたものはいずれも死んだら終わりになるものです。「だから何なの？」という言葉で一つ一つ消していったら、それでも消えないであとに残るものって何だろう。それは自分の死を超えて後世のためにしておくべきことではないか。これが死ぬまでにしなければいけないことではないかと思っただけです。

### 2. 衣食足りた医師層

人には誰にでも故郷への愛情があるように、この生まれ落ちた地球への愛着があるでしょう。今、みんながその心に戻らなければいけない時代になっているような気がするのです。一昔前には隣部落同士でいがみ合っていた人間でも時代が変わって同じ県人としてまとまるのと同じように、地球人同士でいがみ合っているのをみんなが変だと感じています。

命を扱う立場にある医者ならなおさらで、地球上にいる人間や動物、植物といった命を代表してみんなが救われる道を模索する責任のようなものがあるような気がするのです。

しかしながら、衣食足りて礼節を知るといいますが、地球のこと、人類のことを思えと言ったって、毎日が食うや食わずの生活をしている人間では余程の天才でない限り無理かもしれません。だから、衣食足りたわれわれが代表してそれをしてしなければいけないような気がするのです。

### 3. 愛の医療

それでは、どのようにして医者が地球を救うのでしょうか。それは医療の原点に戻ることではないのでしょうか。それが**愛の医療**です。それは、医療の原点というより人間の原点でしょう。

患者は医者に命を預けます。そのときに、医者が自分の家族と同じ様にわけへだてなく、自分自身を見るように誠心誠意患者を診ること。それを外に向けたパフォーマンスとして行うのではなく、自分自身の心に誓って行うこと、それが**愛の医療**ではないのでしょうか。それなら私はいつもそうしていると言う人はそのまま続けていただければいいのです。実はそんな人間が次第に少数派になってきているのではないのでしょうか。

よく注意してみるとわかります。今の社会は自分の隣にいる人を、ちょうど電車と一緒に乗っている背中合わせの他人を見るようにして見ているのではないのでしょうか。それは自分と他人の間に壁をつくる目です。表面は愛想のいい顔をしていながら。それが**愛とは逆の目、すな**

わち断絶の目です。そんな目が無意識のうちに一人一人に染み付いてこの社会の根底を作っているのではないのでしょうか。そして、その影響で医者も自然にそんな目になってしまったのではないのでしょうか。

この目こそがこの世界の根源的な問題ではないかというわけです。そして、その源は私たち一人一人の心の中にあるのではないのでしょうか。だから、地球や人類を救うのに、どこかに何かをしに行くのではなく、私たち一人一人が自分自身の心に気づき、自分で自分の意識を変えていくことからしか始まらないのではないかというのです。

#### 4. 愛と断絶のせめぎあい

この地球上には愛の心と断絶の心がせめぎあっています。断絶の心がはびこると愛が駆逐されます。そして、断絶の心は自己中を蔓延させ、人間不信を撒き散らし、孤独と恐怖をもたらし、みんなを競争に駆り立て、苦しみに導きます。それがこの社会の現実ではないのでしょうか。殺人、強盗、放火、暴行、詐欺、これらはすべて断絶の心が蔓延し、愛を駆逐しているからではないのでしょうか。地球規模で戦争や破壊の危機が進行しているのもそこに原因があるのではないのでしょうか。

何千年や何百年も前の昔ならそれでも地球は平気だったのかもしれませんが。なぜなら人間の数に比べるとまるで無限のように巨大で圧倒的な地球の存在があったからでしょう。しかし、このように人間が地球上にあふれてしまったら実は地球が無限ではなく、人間の暴走が地球全体を危機に陥らせているということは誰でも知っていることです。しかし、そんな危機にありながらも人類は暴走し続けています。それはちょうど鼠の大群がお互いに競争しながら海になだれ込んでいるようなものではないのでしょうか。鼠の一匹、一匹は何かおかしい、このままでは危ない、と感じながら、あきらめて競争に身をまかせているのです。

医療界でも同じことが起こっています。厳し

い医療経済情勢に影響され、いつのまにか算術医療が大勢を占め、原点である愛の心が次第に失われています。そして病院に断絶の心が蔓延すればするほど、いよいよわべだけの愛想顔が励行あるいは強要されています。そのことでみんなが苦しんでいます。医療人が何のために医療をしているのかわからなくなり、夢と希望を失っています。特に若い人たちほど混乱しています。こんな現状を打開し、次世代を担う若い人たちが夢と希望をもって医療に携わってもらうためにも、われわれが原点に戻る努力をしなければいけないと思うのです。

でも、そんなに現実はいまあまくないよ、愛では食えないよ、という人もいます。そのようにしてみんながあきらめて現実に流されているのです。本当にそうなのか、まず実践してみてもうでしょうか。

#### 5. 愛の医療の実践

どのようにして実践するのでしょうか。「患者に愛を！」「地球を守ろう！」などと書いたプラカードを持ってデモをすること？それは違うでしょう。何かの政治団体や宗教に入ること？それも変でしょう。どこかに寄付をすること？もっと大切なことがあるでしょう。国境なき医師団に入ること？医者みんながそんなことをしてもしょうがないでしょう。

もっと本質的で重要なこと、その鍵がわれわれの現場の医療の中にあると思うのです。そのことについてもう少し、説明してみたいと思います。

#### 6. 断絶と共感

一本の草花が咲いています。その草花が咲くためには、太陽が必要ですし、雨が必要ですし、大地が必要ですし、風が必要です。そしてまわりの草花との共生や受粉などという協力がが必要です。そのように、ひとつの草花はまわりのものすべてとつながってこそ生存できています。これは厳然とした事実です。だから、時期がきたらちゃんと一斉に申し合わせたように花

を開くことができるわけです。人間一人が花開くためにも同じことが言えるのではないのでしょうか。人間も取り巻くすべてのものと心がつながってこそ花開くのです。これを愛とっているのです。しかしながら現代の人間は逆に、一人一人が「私」という壁をつくり、他人や、取り巻くすべてのものから、自分を孤立させています。これが愛の反対、**断絶の心**です。これがすべてをうまくいかにさせている原因であり、一人一人がそこから抜け出すことが必要ではないかというわけです。

### 7. 愛は断絶の心を解消する。

愛は個人の思想信条や立場を超えて人間の心をつながらせるものです。今の世界は思想信条宗教によって人間が断絶され争い、戦争にさえなっていますが愛にはそれを超える力があります。

愛の原点は母親がわが子を抱いている姿にあります。子供は母親に抱かれて安心し、母親も子供を抱いて安らかにしています。例えば、子供の考え方がどうであれ母親は息子を愛します。母と子は思想や宗教が一致したから結ばれているのではなく、それを超えた心で結ばれています。わたしたちが日常診療において幸せと感じるのも心がこの状態にあるからではないのでしょうか。例えば、どんな思想宗教を持った患者であるかは関係なく患者と医者の間では信頼関係が築けます。患者が治って喜ぶ顔を見て幸せと思ひ、患者も治してもらって幸せと思う。たとえお互いに立場や考え方は違ってもそこには心が通じ合うことの幸せがあります。すなわち愛が医療の原点であり、それが究極的に心や体を癒す力で、人間がもどるべき原点ではないのでしょうか。

### 8. 大海の一滴

ここで、「わかった。でも本当にこんなもので地球や人類が救えるのか」という疑問があるでしょう。「人類五十億人のうちのたった一人や二人がいくらじたばたしてもどうにもならないのではないか。それは燃えさかる大海にたら

した一滴の水のようなものではないか」という疑問があります。

でも、よく注意してみてください。人間一人一人が砂粒のように孤立した五十億分の一と勘違いしているから微力と思うのです。そんな勘違いは先に述べたような、この時代の影響で個人の心に染み付いた**断絶の心**からきています。確かに心が砂粒のようにみんな離れ離れならどうしようもなく、そこには絶望しかありません。実は現代が孤立からくる不安と恐怖の時代になっているのもこの**断絶の心の蔓延**から来るものです。

しかし、事実を良く見ることです。事実はそのうちではありません。一滴の水も大海のすべての水と同じです。たらされた一滴の水は大海と一つになり大海全体に影響を与え大海そのものを変えるでしょう。最近の科学研究によると、一滴の水の分子は自然の対流により数年後には地球の反対側にまで届いているといいます。そのように、**人間一人の心は地球や人類全体とつながっています**。目の前のあなたと、東京駅前のベンチに座っている人も、ロンドンの街中で新聞を読んでいる人も、イラクで戦争をしている人も、中国で反日デモをしている人も、心はみんなつながっているのです。そう思いなさいと言うのではなく、心の事実をよく見るとそうだとわかるはずです。

うらみ、つらみ、などで心が離れ離れになるのも人類共通、それが共感で解消されるのも人類共通です。あいつらはひどいやつだ。あの民族は悪だ。あの国は悪だ。そんなイデオロギーによるレッテル貼りが**断絶の心**からくるのもすべて人類共通です。そのレッテルが国であり、民族であり、地域であり、宗教であり、人種であるわけです。その根源を追及していくと、わたしたち一人一人の心が隣人と壁を作ることから始まっているというわけです。だから、1対1の人間関係である私たちの毎日の医療の中にその**解決の鍵**があるのです。

心はつながっているから、共感した一人の人間は必ず周りの人と共感します。例えば、ある

一人の医者が一年で百人の患者と共感したとします。すると、共感した患者は必ずその後に出会う人と共感します。これが人間のすごいところで残された光です。1人が1年間で数十人の人間と出会うとします。百人×数十人＝数千人。その数千人がまた、数十人に出会う。数千人×数十人＝数十万人となります。これが愛の広がりです。このようにして共感の心が地球全体に広がっていくわけです。もちろん逆に断絶の心もこのようにして広がりこの社会を窮地におちいらせています。だからこそ、誰かが愛を広げる必要があるのです。

### 9. 心はつながっている

今の時代はみんなが幸せになろうと努力しているのになぜか不幸になっています。ここに何か根源的な問題があるのではないのでしょうか。

私が幸せであるためには、自分の家族が幸せでなくてはならないし、そのためには職場の同僚が幸せでなくてはならないし、そして患者が幸せでなくてはならないのです。すなわち、自分が幸せになるためにはみんなが幸せにならなくてはならないのです。なぜなら心はつながっているから。これは感傷や理想論などではなく厳然とした事実なのです。この事実がつかないで一人一人が断絶の心で孤立しながら自分だけ幸せになろうとするから逆に不幸になってしまうのではないのでしょうか。

例えば、オレオレ詐欺をしている人たちがいますが、あれは他人を不幸にしてでも自分だけ幸せになろうとしている行為でしょう。それも断絶の心からくるものです。心はつながっているから、人をだまして平気な彼の心は周りにいる人や家族にうつります。そのため彼の周りには断絶の心の人だらけになります。そのことで彼は孤独に陥り不幸になります。誰の罰を受けるわけでもなく、心がつながっているという事実がその結果を招くのです。それは理屈ではなく、理想論でもなく、宗教でもなく、明白な事実なのです。

### 10. そうせざるを得ない

心がつながっていることに気づいた人は自然に自らの意思で行動をします。それは人から指図されたり強制されて行うものではありません。倒れている人に手を差し伸べるでしょう。そうせざるを得ないから。人をだまそうとすると、できないと心が自分に言うでしょう。だまされる人の苦しみがわかるから。そして、人をだますとめぐりめぐって自分が不幸になるのを知っているから。いじめを見るとやめさせるでしょう。なぜなら心が痛むから。戦争で人を殺せと指示されたいやだというでしょう。なぜなら自分が殺されるように思えるから。山や海を汚すのはいやだと言うでしょう。それは自分が汚されるように感じるから。彼のつながっている心がそうせざるを得ないのです。そんな心は動物や植物でさえわかります。いや、動物や植物にこそ純粋な愛があるのではないのでしょうか。わたしたちが動植物に癒されるのはここにあり、この地球上の動植物と共存するためにも愛なのです。

人間なんてこんなものさ、と知ったかぶりの悲観論者になってもしょうがないのです。わたしたちの子や孫、そしてその先の未来にわたってこの地球上に生きていかなければいけないのも事実です。子や孫のためにいくら財産を残してみても、地球が住めなくなるほど汚れ、あるいは戦争にでもなったら、何の役にも立ちません。それどころか、そんなものを追い求めるあまりいつのまにか愛を忘れ悲惨な事態になっている家族が目の前に山のようにあるはずです。

### 11. 実践

愛の医療はその気があれば誰でも今すぐに実践できるものです。別に勉強も努力も訓練も必要ありません。なぜなら愛は誰でも生まれついて持っているもので、今までの断絶の心で蓋をしていたのを開けばいいだけのことです。そして誰の指図も受けずに自分が愛だと思える医療を実践すればいいのです。

例えば、今まで通り過ぎるようにしていた回

診を「今日は天気がいいね」と患者と立ち話をしてみたり、つい稼ぎばかり気にしていたのを反省したり、つらい顔をしている患者に「どうしたの」と声をかけたり、自分の医療が本当に患者のためになっているか反省したり、外来でつい患者をさばっていたのを反省したり、そんな自分の日常の医療を自分自身で振り返ることから始まるのではないのでしょうか。

人それぞれが実践した愛の医療は自然に波動のように共鳴し、浸透し、つながっていくものです。それは宣伝活動などといううわべなものではなく、この社会の心の深層でじわりじわりと共感によって浸透していくものです。あなたが実践すると患者やまわりの人間は必ず答えてくれます。なぜならすべての人間は心の奥底では愛を求めており、苦しんでいる患者ほど愛の医療を求めているから。それによって誰も犠牲になることはなく、それどころか自分の家族が本当に幸せになることでもあるのです。誰に許可を得る必要もなく、あなたや私が一人で勝手にやればいいのです。公言するのが恥ずかしいなら黙って一人でこっそりやることです。それ

が本物かもしれません。

これが理想的な愛の医療だ、このとおりやればいい、なんていうのありません。でも、不思議なことに、はじめのうちはわからなくても、そのうちどんどんわかってくるようになります。というのも、まわりの人から患者から家族から動物から草や木から空から大地から、自然に愛を教えてもらうことになり、やればやるほどいよいよ実感してきます。だから、やればやるほど医療をすることが喜びになり、生きていることが喜びになり、いよいよ追求せざるを得なくなるのです。それは究極的に自分が救われることであり、そしてそれは私たちの子や孫が、そして地球が救われることでもあると思うのです。

ホームページの紹介

心の苦しみの完全解消法

—地球と人類の未来のために—

<http://www5.ocn.ne.jp/~siisa/>

**原稿募集！**

**随筆のコーナー（2,500字以内）**

随時、募集いたします。日常診療のエピソード、青春の思い出、一枚の写真、趣味などのほか、紀行文、特技、書評など、お気軽に御寄稿下さい。